

2015年 5月号(創刊号)

作成・発行 立命館大学 文学部 人文学科
地域研究学域 京都学専攻

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

(Tel/Fax 075-466-3485)

(Mail: aso0605@fkc.ritsume.ac.jp)

【目次】

1. 主任挨拶
2. 新任・他専攻からの教員挨拶
3. 卒業生から後輩へ贈るメッセージ
4. インターンシップ紹介
5. 河角龍典 先生 急逝
6. 新卒業生の就職先一覧
7. 大学院生から
8. 京都学研究会の活動記録

1. 主任挨拶

田中 聡 教授

2015年度の京都学専攻主任を務める田中聡です。宜しくお願いします。

さて、京都学専攻が発足して、今年度が4年目となります。2012年の春に地域研究学域に入学した1期生諸君が、この春から4回生となり、学域が始まって初めて、1～4年の各回生が全員揃います。京都学専攻はまだ若い専攻ですが、その分、良い意味で形だけの「伝統」にとらわれないバイタリティを感じる学生が多くなります。小さくても光る専攻として、これからさらに独自の輝きを増すよう、ともに励んでいきましょう。

2. 新任・他専攻からの教員挨拶

河島 一仁 教授

地理学専攻から参りました。2014年度～2016年度の3年間、京都学専攻でお世話になります。専門は歴史地理学で、特に野鍛冶の集団に関して取り組んできました。京都もそのフィールドのひとつです。しかし、この機会に、京都の大学や衣笠地域に関するテーマも深めたいと思っております。京都とは全く関係なく、講義で語ることもないですが、アイルランドとウェールズに関しても研究しています。

山崎 有恒 教授

山崎有恒と申します。日本近代の歴史(災害史など)を専門にしています。日本史研究学域に所属していたのですが、昨年京都学に移籍となり、今年で二年目を迎えています。出身は東京で、趣味は旅行、中華料理を作る、猫と遊ぶなどなど、子供のころから京都に憧れていて、何度も旅行に来ていましたが、気が付いたら京都の大学で教員をすることになっていました。しかし研究対象としてみた京都は深遠で難解な存在ですね。みなさんと一緒に少しでもその秘密に迫りたいと考えています。どうぞよろしく。

須藤 圭 助教

皆さんは、京都が好きですか？ 嫌いですか？ 京都は、一人ひとりによって違うイメージをもつ、不思議な場所です。その京都をかたるコトバを分析することで、社会の構造や人間の思考を明らかにしようとしています。ちなみに、この意味で、『名探偵コナン 迷宮の十字路』は、非常に面白い映画です。ぜひ「批判的に」鑑賞してみてください。専門は日本古典文学。源氏物語を中心に、江戸時代の紀行文も視野に研究を行っています。

麻生 将 特任助教

2014年4月に京都学専攻に着任しました。学部から大学院を経て立命館大学16年目です。もともとは地理学が専門で、その中でも近代日本のキリスト教会と地域社会との関係の変化について研究してきました。京都も歴史的にはキリスト教とのつながりが少なからず見られますので、キリスト教を一つの軸に京都を考えていけたらと思います。よろしく願いいたします。

3.卒業生から後輩へ贈るメッセージ

小門 愛(京都学プログラム2014年度卒)

わたしは京都学プログラムでの4年間の学びで、京都というのはひとつのイメージでとらえることが出来ないということを学びました。従来わたしが抱いていたまたは世間が抱えている京都イメージだけではなく、学習を進めていく中で京都には様々な面があることを知りました。そしてその新しい面を発見するたびに新鮮な気持ちを感じる事が出来て、とても有意義な4年間を過ごすことが出来たと思っています。京都学専攻 所属の皆様には、最初の興味とは異なる分野にも関心が出てくることもあると思うので、低回生のうちは歴史・地理・文学のどの分野にも一生懸命取り組み自分の興味関心につなげることが、ゼミでの良い研究、卒業論文につながるのではないかと思います。そして質の良い研究をするためには積極的にフィールドに出てオリジナルの視点を活かすことが大切だと感じました。

池田 あかね(京都学プログラム2014年度卒)

私が大学生生活の4年間を振り返って感じることは、幅広いものの見方や考え方が身に付き、自分自身の視野が広がったということです。

私は京都学プログラムとして入学しましたが、2回生からは副専攻でスポーツ科学コースを履修し、3・4回生でのゼミでは自分の専攻から離れて文学部全体から構成するテーマリサーチゼミナールに進みました。そして卒業論文では、自身のテーマリサーチゼミナールの主題である「ヨーガ」について執筆しました。このように、京都学だけではなく自分の興味があることを、この4年間で少しでも多く、幅広く研究できました。

また、学業からだけではなく、多くの仲間、教授の方々と関わりあえたことが自分の視野を広げてくれた一番の要因だと感じています。自分だけでは解決できないことでも、親身になって共に考えてくれる仲間や教授が立命館大学にはたくさんいます。

後輩のみなさんには、多くの学びの場があり、素晴らしい仲間、教授の方々が集まっている立命館大学でだからこそできることを、思う存分チャレンジしてほしいと思います。

4.インターンシップ紹介

西之京ずいきみこし保存会(担当:三枝 暁子 先生)

西之京ずいきみこし保存会とは、「西之京」(= JR円町駅周辺の住民)の方々約30名から成る、京野菜で作られるお神輿・「ずいきみこし」を作る団体です。「ずいきみこし」は、毎年9月、五穀豊穡に感謝して作られるお神輿で、1960年代まで田畑の広がる地であった西之京の歴史を今に伝える、戦国時代から続くお神輿です。10月4日の「ずいき祭り」の折に巡行します。

インターンシップでは西之京ずいきみこし保存会の方々が、「ずいきみこし」を作る様子を調査・体験し、10月4日の巡行に参加します。花を摘むところから始まるお神輿作りが、1か月後、神様の乗りりっぱなお神輿の完成へと至っていく過程は感動の連続で、お祭りの巡行を見つめる地域の方々・観光客の視線にこれまた感動します！

前期は、事前研修として、2～3回の事前授業を行い、1～2回「宇多野ユースホステル」インターンシップ班との合同授業を行います。その後夏季休暇中9月～10月初旬におみこしづくりの実地研修を行い、お祭りに参加します。後期は、事後研修として、研修のふりかえりと保存会へのお礼の冊子等の作成を5回程度行います。

地域の方々と交流しながら歴史・文化を学ぶ経験は、卒論の作成や卒業後の進路を考えるうえで、きっとあなたの役にたちます！



宇多野ユースホステル(宇多野YH)とは、右京区太秦にあるユースホステル(様々な人種・国籍・宗教の違いを乗り越えて相互理解を深める旅をする人のための安心かつ安価な宿泊施設)です。付近には竜安寺や金閣寺、嵐山などがあり、世界で一番居心地の良いホステル**Most Comfortable Hostel** を受賞したこともあり、旅行者に大変人気のあるユースホステルです。

宇多野YHでは世界各国からの旅行者に向けた京都の伝統文化やおすすめの観光スポットを紹介する様々なイベントを実施したり、展示を行ったりしています。こうしたイベントの企画・運営のほか、京都のガイドマップの作成も行います。

また、宿泊客をずいき祭りにご案内するなど、「ずいきみこし保存会」インターンシップとの共催イベントも行います！

宇多野YHの職員の方々をはじめとする地域の方々、そして旅行者の方々と共に学び、共に作り上げていく達成感を味わえますし、京都の伝統文化のインターナショナルなアピールもできます！

前期は事前研修として、2～3回の事前授業を行い、1～2回「ずいきみこし保存会」インターンシップ班との合同授業を行います。その後、後期セメスターの10月から11月に宿泊客対象の京都案内イベントや展示会を行います。また、京都のおすすめスポットの地図を作成します。

地域の方々のみならず国際的な交流を通して歴史・文化を学び、発信する経験は、卒論の作成や卒業後の進路を考えるうえで、きっとあなたの役にたちます！



5.河角龍典 先生 急逝

京都学プログラム創設以来、京都学専攻の立ち上げに中心となって尽力された河角龍典(かわすみ・たつり)先生が、去る4月13日22時58分、胃癌のため大津赤十字病院にてお亡くなりになりました。あと半月で44歳になられるという若さでした。

河角先生は本学地理学専攻をご卒業後、(財)大阪府文化財調査研究センター専門調査員、本学文学部助手を経て、2003年に本学COE推進機構の講師、2009年に准教授、昨年には教授となられ、出来たばかりの京都学専攻の柱として活躍されてきました。

研究においては、立命館の人文地理学を継承し、自然地理学的な地形分析と、コンピュータを駆使した景観復原の融合を行うという、先端的な分野のトップランナーであり、地理学にとどまらず考古学、歴史学、建築史、都市論など、多方面の研究者とも熱心に交流されていました。近年は防災や地域社会の振興などにも研究範囲を広げられ、そうした分野の研究と教育を通じて、河角先生は「いまを生きる普通の人々にとって、研究がどんな役に立つのか」を繰り返し問い続けられていたのだと思います。

2013年9月、病が判明し、手術ののち一年後に復帰されたのですが、今年に入って広範囲の転移が確認され、3月22日の卒業証書授与式・同パーティに出席されたのが、お会いした最後となりました。

本当に無念でありませんが、先生が示された学問への情熱や、職場への愛情は、これからもずっと本専攻のなかに生き続けます。

河角さん、どうぞ安らかにお休み下さい。(田中 聡)



6.新卒業生の就職先一覧 (2014年度卒業生)

- 【観光・交通】近畿日本ツーリスト個人旅行販売株式会社、クラブツーリズム株式会社、株式会社シティツアーズ、西日本旅客鉄道株式会社
- 【建設・製造】株式会社神谷紙器工業所、株式会社三晃空調、株式会社松本義肢製作所
- 【コンサル・技術】
- 【商社】
- 【サービス・小売】株式会社石田大成社、株式会社ホンダ四輪販売北陸、公益財団法人かすがい市民文化財団、高見株式会社、三井倉庫エクスプレス株式会社、イズミヤ株式会社、株式会社パル、タイムズ24株式会社、株式会社東急リゾートサービス、株式会社ダイエー、株式会社NHK、株式会社イノブ、株式会社新都ホテル、みなみ信州農業協同組合、株式会社やまと
- 【金融・保険】永和信用金庫、株式会社かんぼ生命保険、株式会社滋賀銀行、京都中央信用金庫、株式会社かんぼ生命保険、株式会社池田泉州銀行、株式会社長野銀行、株式会社ゆうちょ銀行、野村證券株式会社
- 【医療・福祉】医療法人社団 医聖会、株式会社カワチ薬品
- 【出版・マスコミ】株式会社くまざわ、秋田朝日放送株式会社
- 【官公庁】那須塩原市役所、岸和田市役所、松本市役所
- 【教育・芸術】学校法人星美学園、岐阜県教育委員会、学校法人八商学園 秀岳館高等学校

7.大学院生から

佐藤 弘隆(立命館大学 大学院 文学研究科 文化情報学専修 博士課程後期課程)

私は京都学プログラム(現京都学専攻)の一期生として入学しました。学部卒業後は博士課程前期課程として地理学専修に進み、「都市祭礼の継承と運営基盤の変遷に関する研究—京都祇園祭の山鉾行事を事例として—」という論題で修士論文を書き上げ、今春からは博士課程後期課程として文化情報学専修に進学します。主な研究のテーマは祇園祭をはじめとする都市祭礼や京町家の継承に関する研究であり、聞き取り調査や文書、古写真のアーカイブなどを行い、一次資料の収集に力を入れています。

現在の私の研究テーマや調査スタイルは学部時代の京都学プログラムでの授業や活動での経験に大きく影響を受けています。特に2、3回生時に履修したフィールドワークを行う授業では、単に巡検に出て先生の解説を聞くのではなく、自分たちで地域の人々に聞き取りを行う機会を複数与えられました。これによって、聞き取りの準備から手順や態度まで基本的なことを現場で学ぶことができました。また、3回生で履修した京都府立総合資料館でインターンシップを行う授業では資料館所蔵の文書の撮影を行う機会を与えられました。ここで学んだ資料の扱い方やアーカイブの手法の基礎は現在の資料収集に役立っています。

授業の他にも貴重な経験ができました。それは祇園祭の山鉾の1つである船鉾へのボランティアです。当時、京都学の河原先生と地理学の矢野先生からのお誘いで、祭りの手伝いや収蔵品の調査に参加させていただきました。ここでは地域の人々の関係づくりの重要性を学び、この関係は現在でも続いており、卒業論文、修士論文の執筆の際にも船鉾町の人々には大変お世話になりました。今年もボランティアを募集しますので、興味のある方は京都学の共研に相談にきてください。

このように京都学での経験を振り返ると、調査対象となるものが身近にあることの強みを感じます。現在、地域研究学域や京都学専攻で学ぶ学生の皆さんには、是非、現地に出て、様々な経験を積んでいただきたいと思います。

8.立命館京都学研究会の活動記録

京都学専攻では「京都」を軸に文学・歴史学・地理学をはじめ様々な分野から教育・研究・地域連携などの活動が盛んに進められていますし、これこそが京都学のいちばんの強みであります。

そこで、京都学に関わる皆様の互いの議論・意見交換・コラボレーションの機会を積極的に設け、京都学の一層の発展を目指すべく、「立命館京都学研究会」が2014年に発足いたしました。以下は2014年度の活動記録です。

2015年度も引き続き研究会を開催しますので、ぜひご参加いただければと存じます。

【発表者】	【タイトル】	【日時】	【場所】	【参加人数】
1回目 瀧本 和成 先生	「近代文学と〈京都〉」	2014年6月25日	京都学共同研究室	25名
2回目 田中 聡 先生	「地域史研究と映画『祇園祭』をめぐって—」	2014年7月23日	京都学共同研究室	22名
3回目 河角 龍典 先生	「長岡京・平安京のまちづくりと風景」	2014年10月29日	京都学共同研究室	21名
4回目 山崎 有恒 先生	「歴史学から見た京都イメージ研究—われわれは「京都」に何を学ぶべきなのか—」	2014年11月26日	京都学共同研究室	33名
5回目 河島 一仁 先生	「京都・立命館のキャンパス地誌」	2014年12月17日	清心館525教室	16名
6回目 須藤 圭 先生	「嘘つきの「京都」—光源氏のモデルは義経か?—」	2015年1月14日	京都学共同研究室	15名
7回目 麻生 将 先生	「近現代の京都におけるキリスト教会の誕生・移動・消滅」	2015年3月25日	京都学共同研究室	22名